

私達の仕事「介護」につきもののリスクについて

私達の仕事「介護」には常にリスクがついて回ります。言い方を換えればリスクを伴った介護をしなければ良い介護が出来ません。

つい先日も自立歩行が可能なお一人が転倒して両側の大腿骨骨折をしてしまいました。片方はひびが入った程度ですが両側の手術になるとのことです。

また、やはり最近看取り対応に近い方が食べ物の誤嚥で窒息寸前でした。幸い現在は回復しておりますが、このようなリスクは介護について回る根源的な問題です。

歩かなければ転倒はしませんが、歩かなければ骨が脆くなり結局はより骨折し易くなります。食べなければ食べ物の誤嚥はしませんが体は結局より衰えて益々誤嚥し易くなります。

リスクがあればその予防は勿論大事ですが、私達の仕事は、現実の限りある介護資源の中で、その両方のバランスを見極めながら常にぎりぎりの選択をしながらこなしているわけで、リスクを前向きに受け止めることこそが本来の介護そのものです。

かつて国鉄が倒産同様になり民営化されて現在のJRになりましたが、当時の減点主義の国鉄職員のキャッチフレーズが“休まずさぼらず働かず“でした。これでは仕事と言えません。かと言って本質を忘れた”赤信号みんなで渡れば怖くない”でも駄目でしょう。

やはり介護の本質、リスクを積極的に引き受ける心構えで介護に当たってこそ真の介護になると思います。

突発的なことが起きても事後対応を迅速・的確にすることを心がけて、気後れしないで、にげない・めげない・言い訳をしない・の精神で、利用者のみなさんの立場に立って心からの尊厳と安心を獲得すべく、日々研鑽と工夫を致しましょう。